

11月13日 逍遙



ワタシは今、私学校跡の国道側の石塀の前。猫のワタシの眼の高さにも大小様々な凹凸の弾痕。灰色の陰影が、猫のワタシの眼には尚更くっきりと人間の本性を浮かび上がらせます。そして、そのいずれの凹みの底にも、悠久の時の流れの中で人間が抱え続ける矛盾を暗示するかのような、深い黄緑の苔。どうして人間は、ここまで徹底して戦争自体を自己目的化できるのか。相手を妬んだり、勝者になって他人より多く手に入れようとしたりと、人間って本当に面倒で欲張りな動物ですね。ワタシ達・猫のように、共同体にあまりこだわらず、しがらみのない生き方が、どんなに穏やかで気楽なことか！（もっともその分、人間社会のような文明や文化などはありませんが…）

石碑「私学校跡」の傍らで、無数に舞い落ちた枯葉達がワタシを暖かく休ませてくれた安息の一時。ワタシは、逍遙館長さんの呟きを思い出します。

「結局、新型コロナウイルスって、人間自身が本質的に抱えている矛盾とか、人間の一番弱いところを、憎らしいほど鋭く突いているような気がするね」

次回「向こうに見え「海の記憶」、のころ」

すず 私学校跡に想う、

のころ

